

お知らせ:次回発信日は5月16日週報(予定)

Jミルクが2024年1月26日に公表した「需給見通し(※2023年11月迄実績)」の予測値と実績(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行:一般社団法人Jミルク生産流通グループ

・3月の生乳需給実績について、飲用等向(日均量)はこれまでの傾向と同様に前年を下回り前年同期比▲1.3%となった。一方、生乳供給量(日均量)は2カ月連続で前年を上回り+1.5%となった。このため、乳製品向(日均量)は+4.3%と3カ月連続で前年を上回り、上昇幅は拡大傾向で推移している。指定団体受託乳量(速報)では、4月中旬(最新)は全国で前年同期比+130ト(日均量)と、2月中旬以降の前年を上回る傾向を継続した。北海道(ホクレン)は、4月下旬(最新)に+1.3%(日均量)とこちらも1月下旬以降の増産基調が続いている。一方、都府県は4月中旬(最新)が+1ト(日均量)と、約1年10カ月振りに前年を上回った。

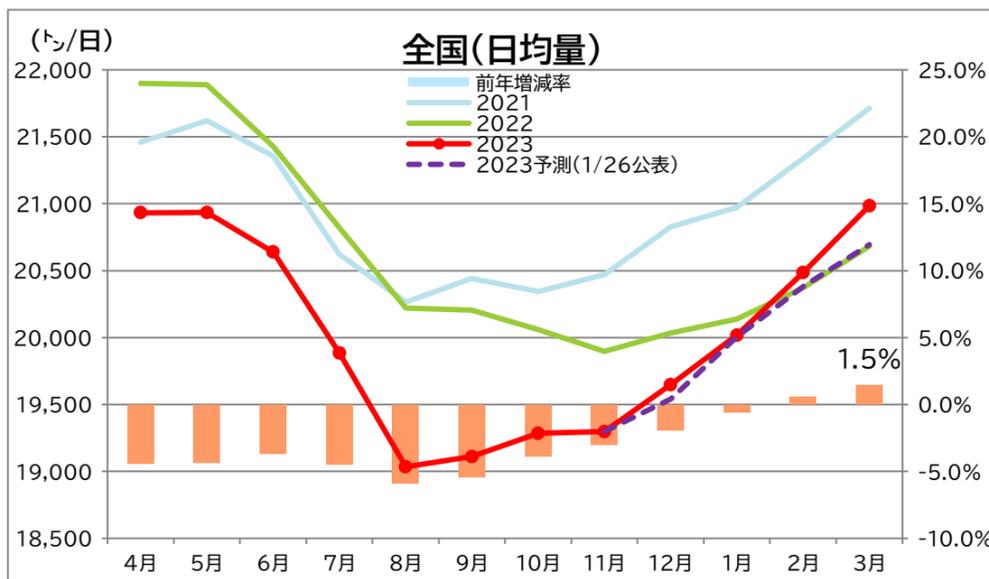
・脱脂粉乳の需給については、生乳供給量の回復に伴い3月の生産量は前年比+11.1%と大きく増加した。出回り量は、前年を下回ったものの、生・処協調で取り組んだ在庫対策の効果が大きく反映され、前月から大きく増加した。このため、在庫量は2月から約4千ト減少し、年度末在庫量は47,8千トとなった。脱脂粉乳在庫量が5万トを下回るの約8年振りとなる。一方、バターは2月と比較して生産量、出回り量ともに増加し、国家貿易による輸入売渡分を考慮すると在庫量は2月から1.2千ト程度増加し、年度末の在庫量は24.4千トとなった。インテージによると、12月の取引乳価引き上げに伴うバターなどの製品価格改定は2月中旬ごろをピークに落ち着いたものの、販売個数は伸び悩み、前年との比較ではプラスの週とマイナスの週が混在している。

・牛乳類の販売動向については、4月は例年より気温が高い日が続いたため3月より若干消費は伸びたものの効果は限定的で、前年比では下回って推移している。学校給食が休みになるゴールデンウィーク中は、東日本を中心に前年より多く余乳が発生し乳製品工場がフル稼働で対応した。また、処理不可能乳の発生を回避するため酪農乳業関係者が懸命に配乳調整に取り組んだ結果、5月10日時点で大きな混乱は生じておらず、学乳供給の再開に伴い加工向け処理量はピークアウトしている。

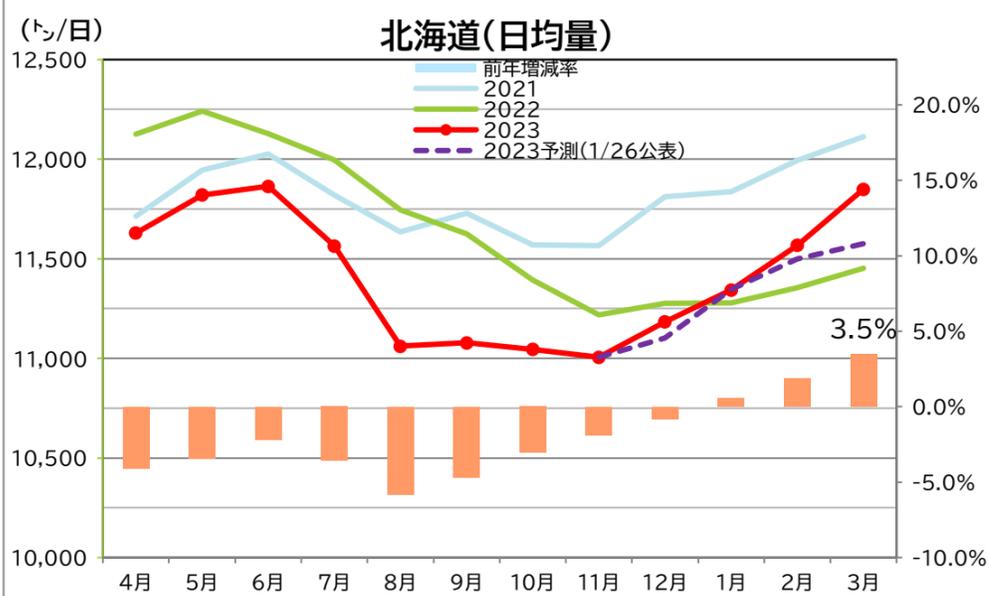
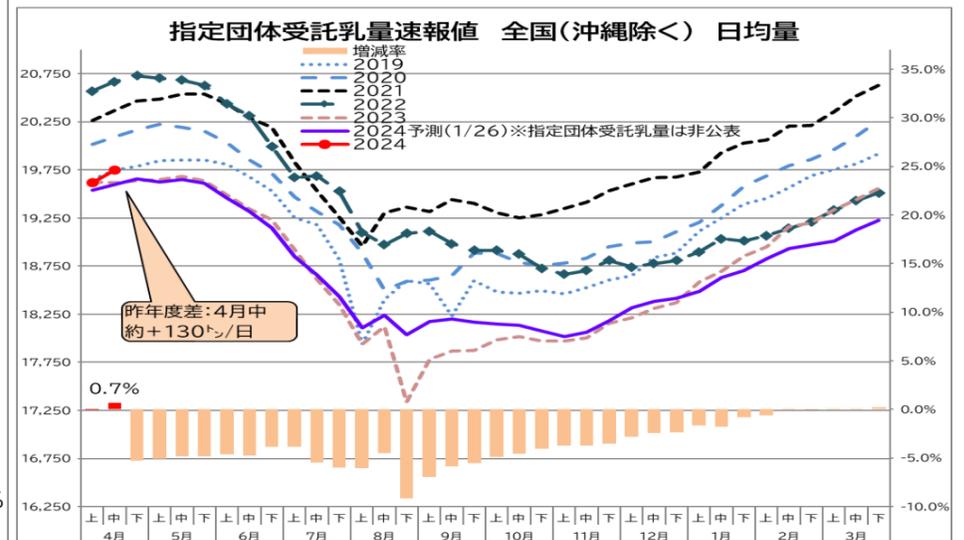
【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)3月の生乳生産量は、全国650.5千ト(前年同月比101.5%)、北海道367.3千ト(同103.5%)、都府県283.2千ト(同99.0%)。

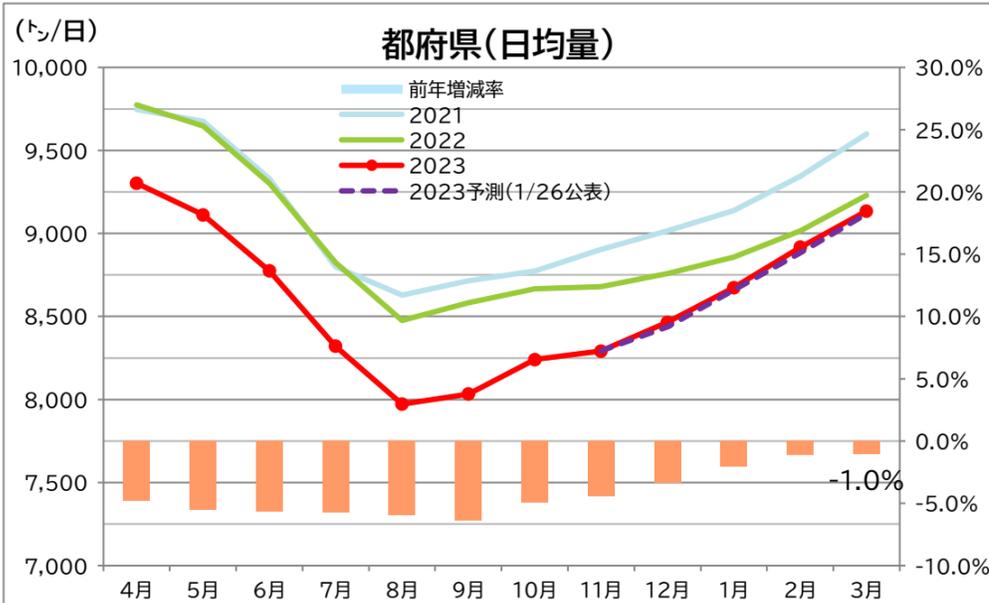
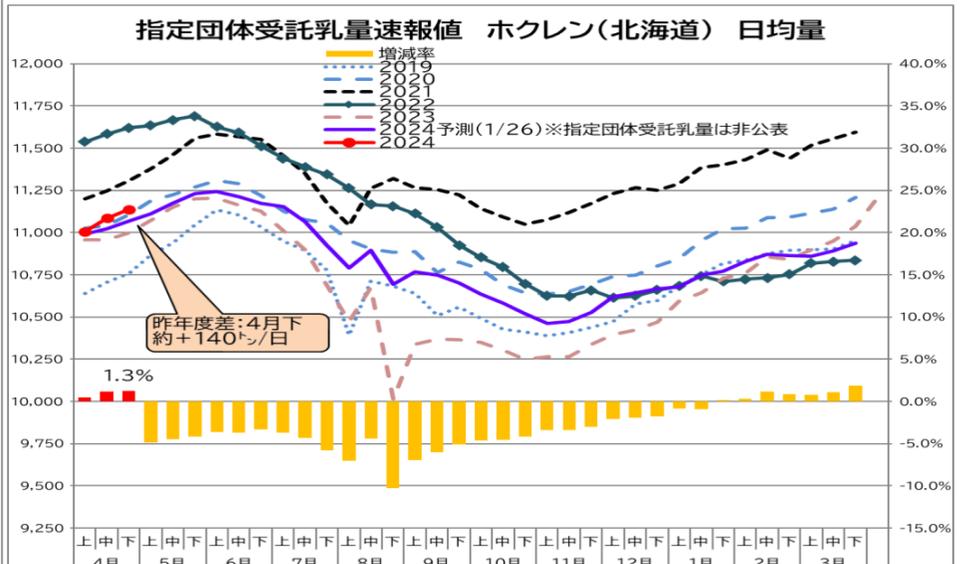
(2)Jミルク予測値(全国641.5千ト、北海道358.9千ト、都府県282.6千ト)との比較は北海道・都府県ともに上振れとなった。



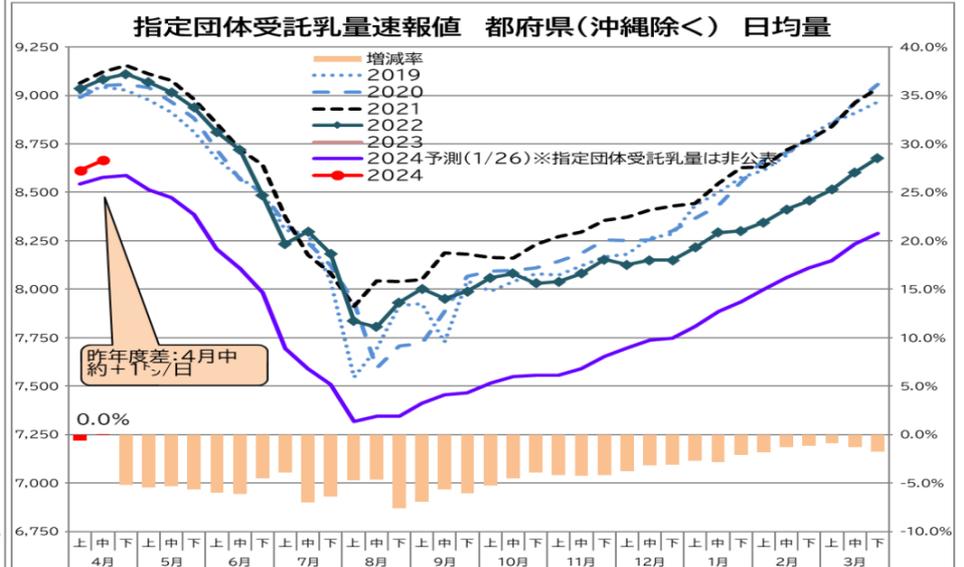
指定団体受託乳量速報値 全国(沖縄除く)※4月中旬



指定団体受託乳量速報値 ホクレン※4月下旬



指定団体受託乳量速報値 都府県(沖縄除く)※4月中旬

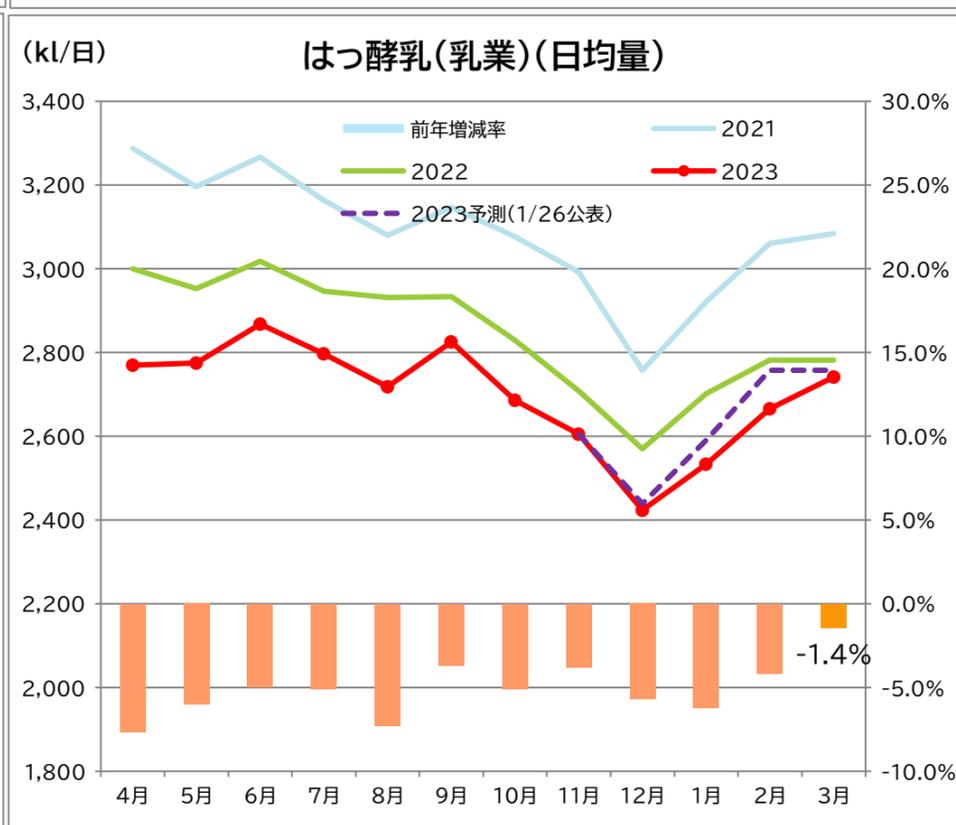
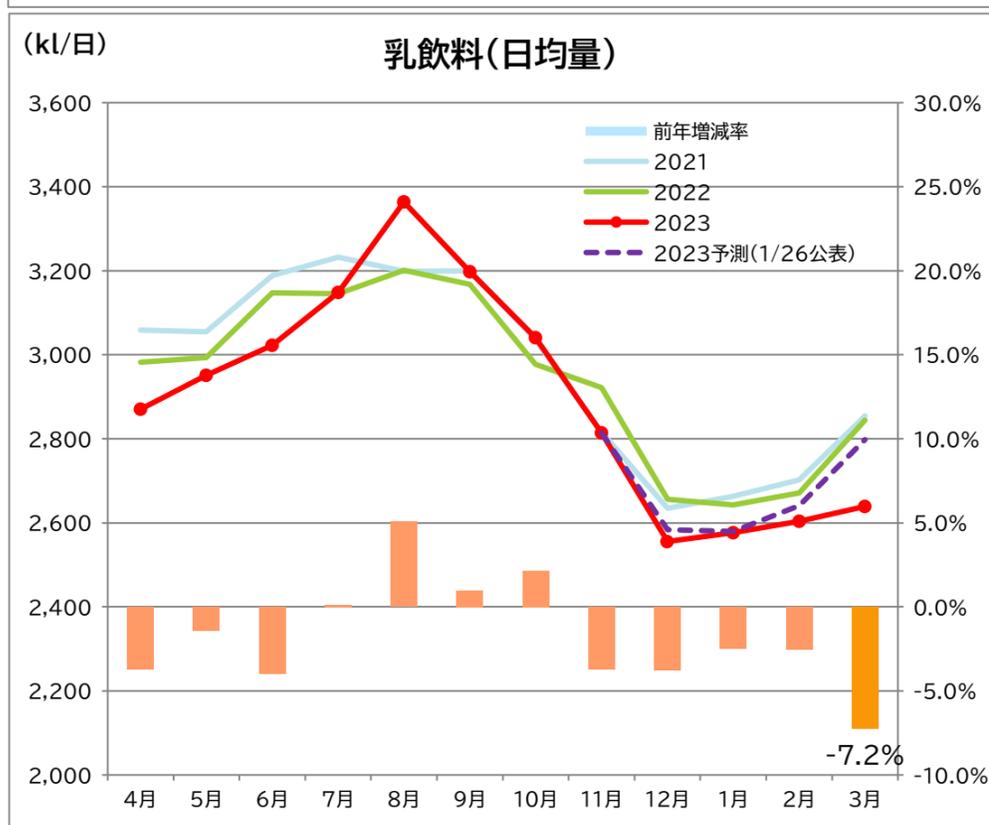
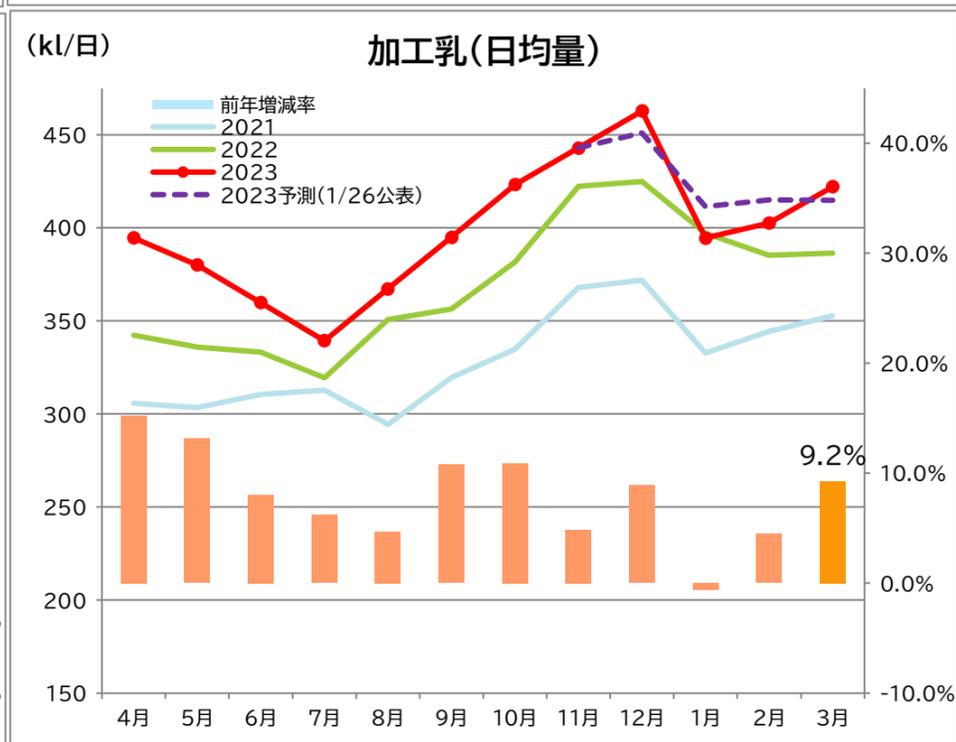
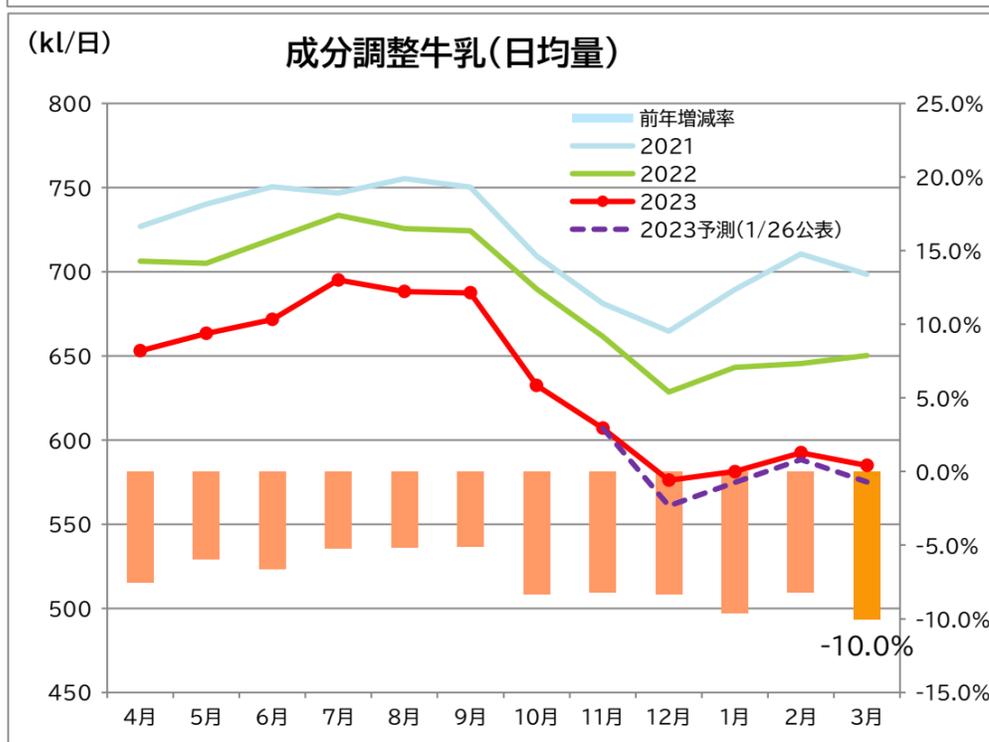
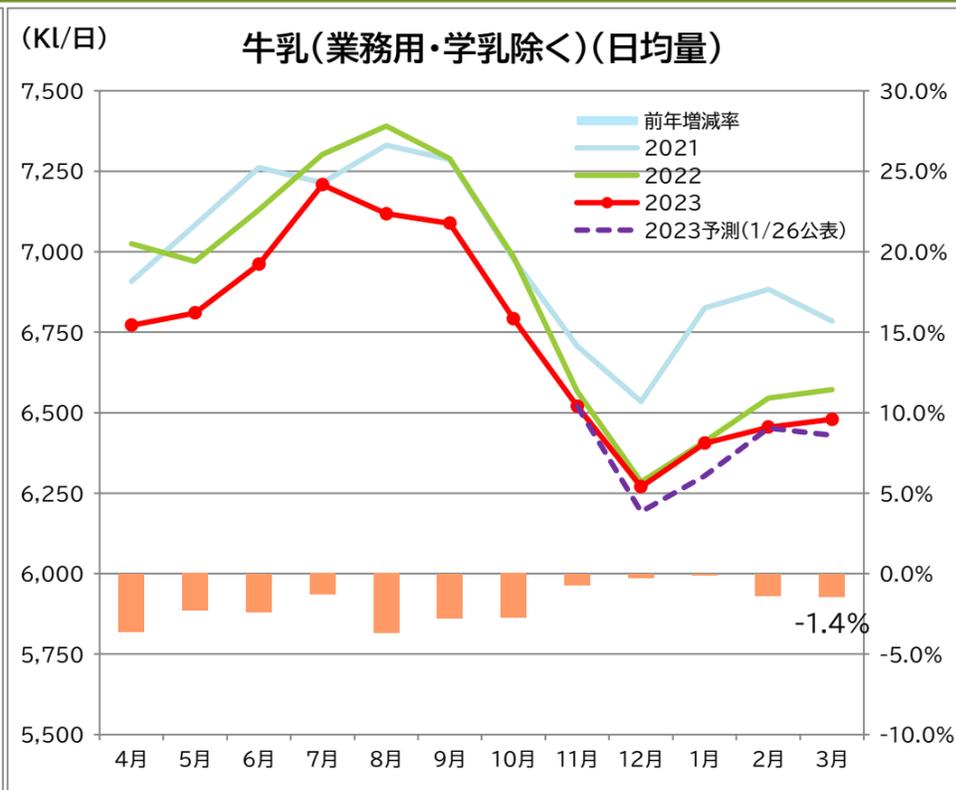
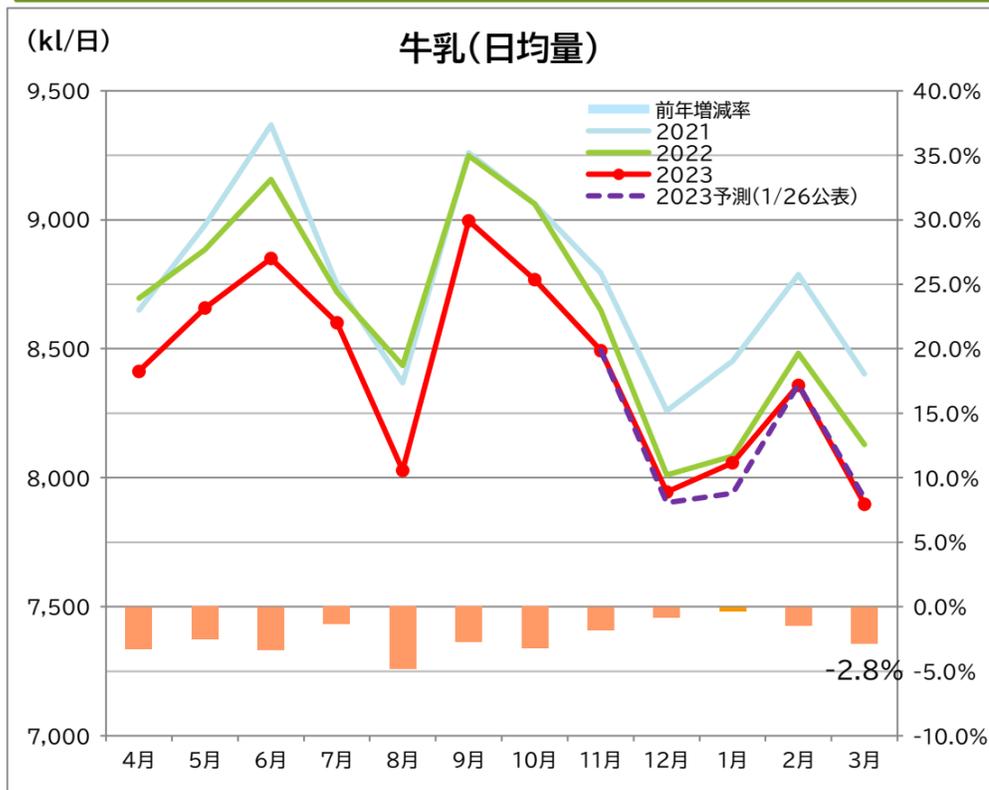


【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)3月の牛乳等生産量は、牛乳244.8千kl(前年同月比97.2%)、成分調整牛乳18.1千kl(同90.0%)、加工乳13.1千kl(同109.2%)、乳飲料81.8千kl(同92.8%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では、357.9千kl(同96.1%)となり、16カ月連続で前年を下回った。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同98.6%、「業務用」は同91.2%、「学乳」は91.1%。

(3)はっ酵乳(乳業)は85.0千kl(同98.6%)と前年を下回って推移している。はっ酵乳(非乳業:2月実績)は106.4%となった。

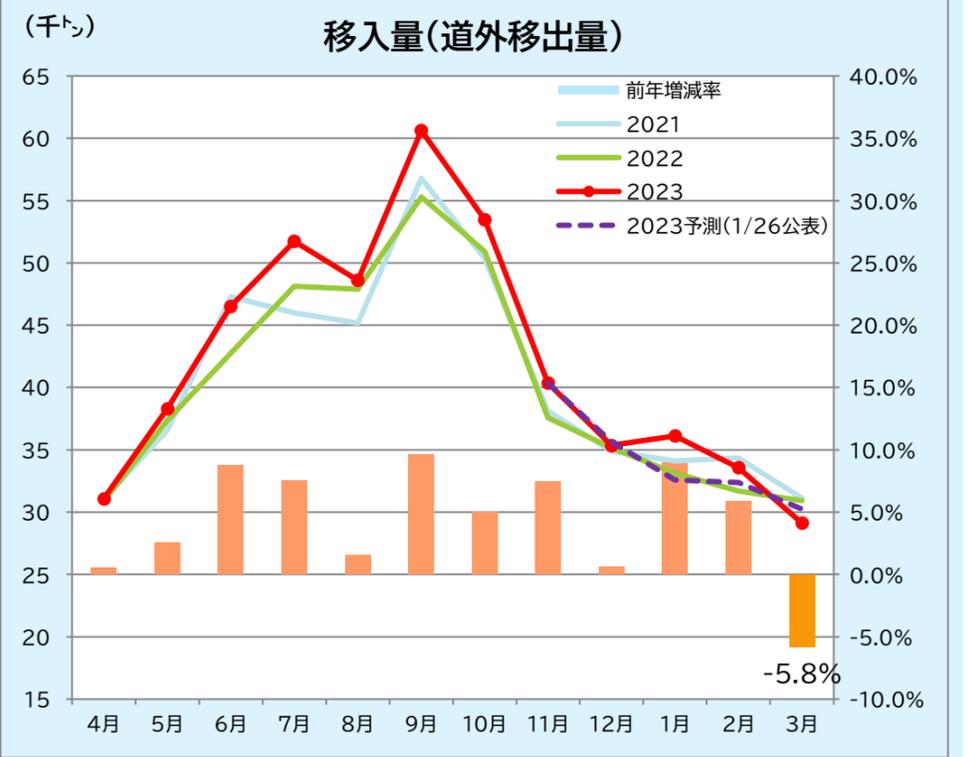
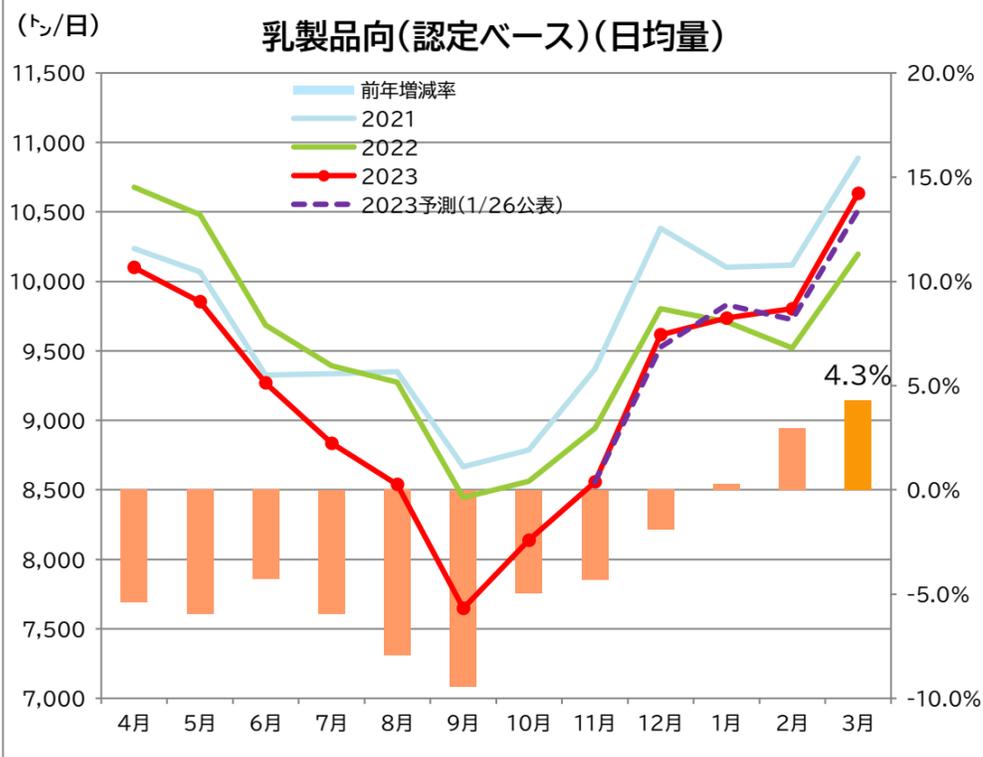
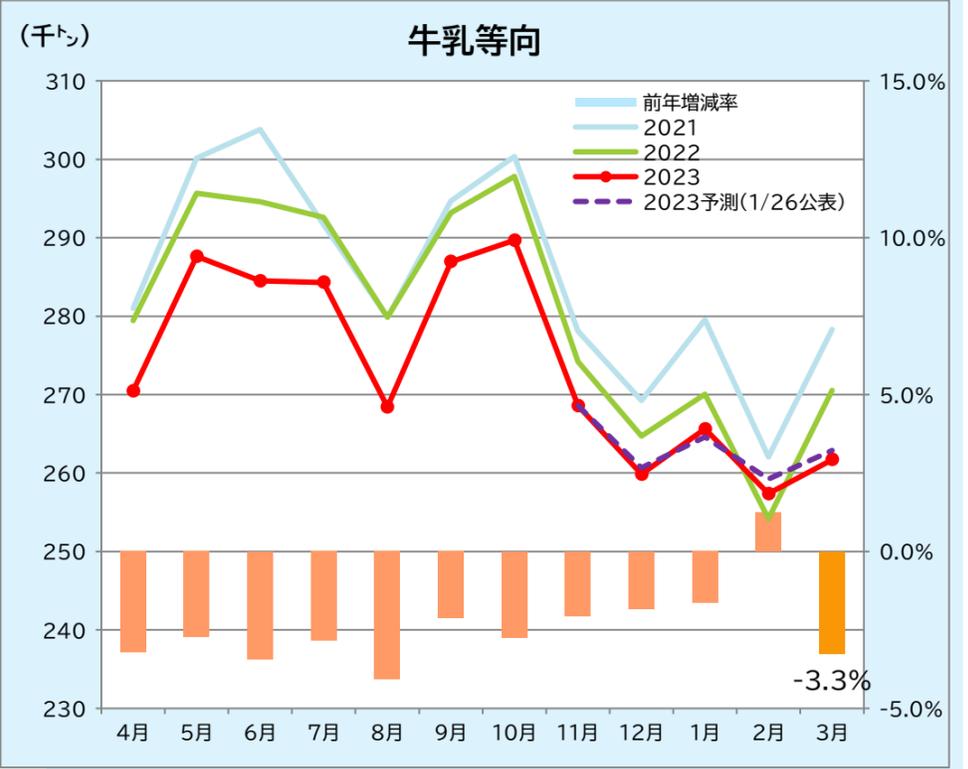
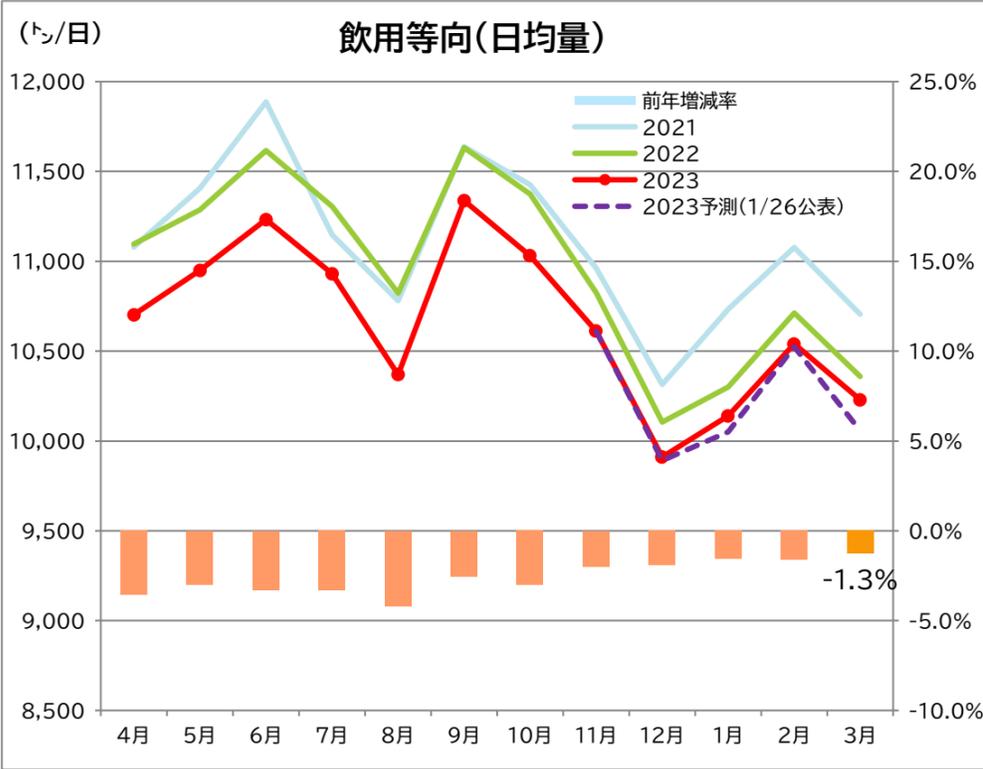
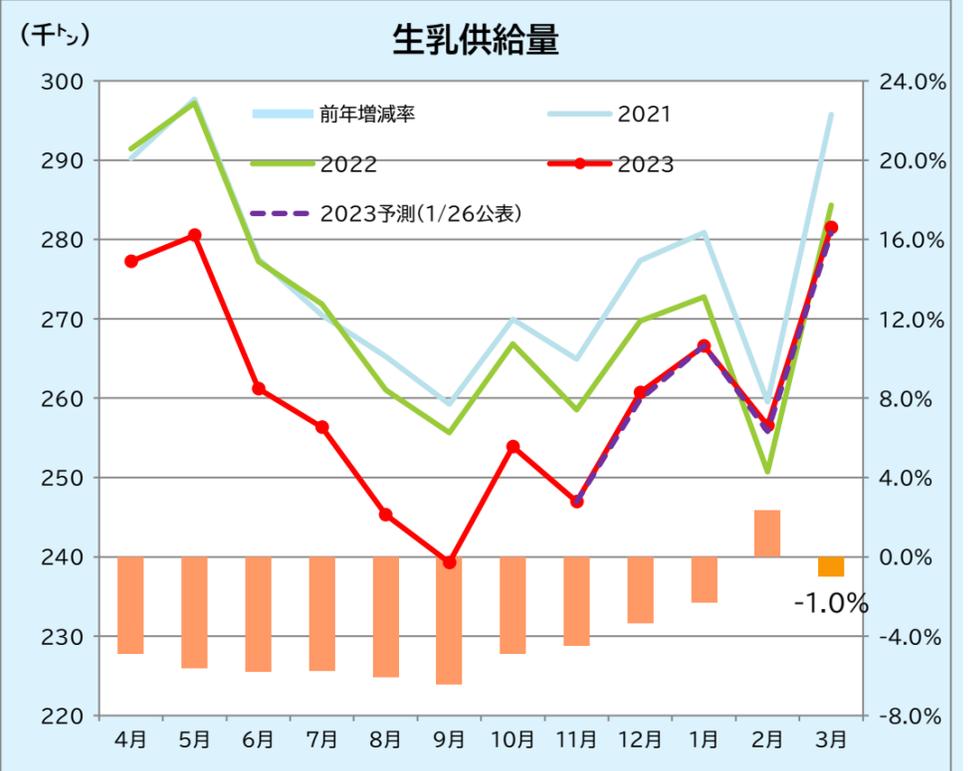
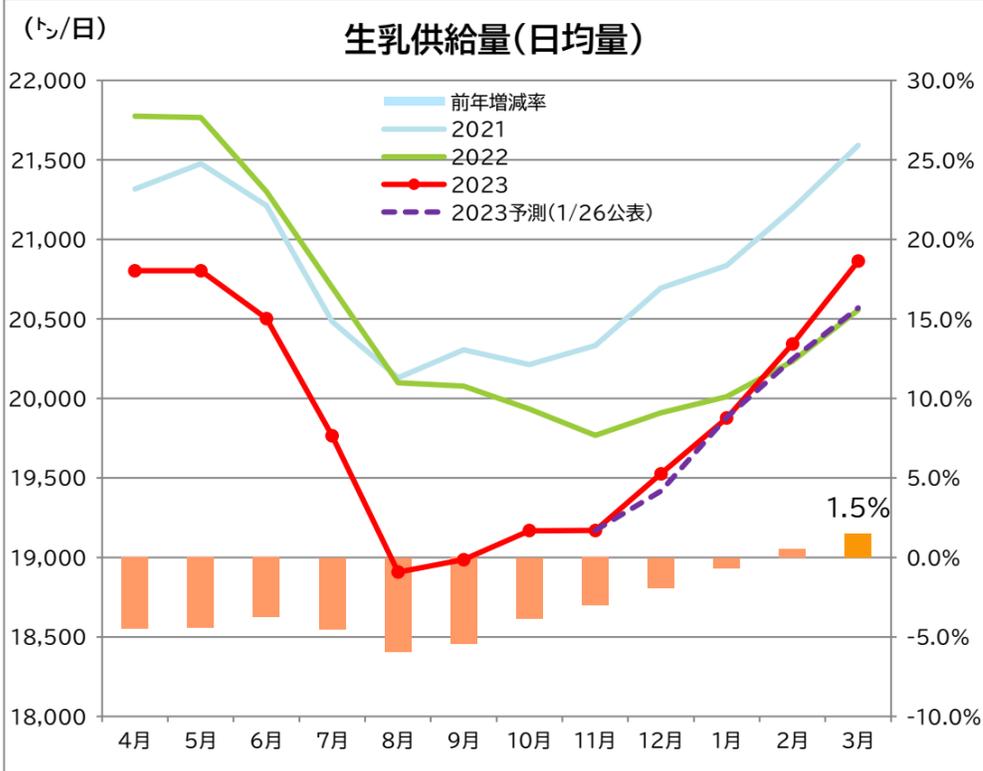


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)3月の生乳供給量は646.7千ト(前年同月比101.5%)、飲用等向317.1千ト(同98.7%)、乳製品向(認定ベース)329.6千ト(同104.3%)。
 (2)飲用等向は前年を下回った一方、生乳供給量は前年を上回り、乳製品向も前年を上回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:637.6千ト)、飲用等向(予測値:311.8千ト)は上振れし、結果乳製品向(予測値:325.9千ト)も上振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)3月は、生乳供給量281.5千ト(前年同月比99.0%)、牛乳等向261.7千ト(同96.7%)。
 (2)北海道からの移入量については29.1千ト(同94.2%)と前年を下回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:280.9千ト)、牛乳等向(予測値:262.9千ト)はいずれもほぼ同水準となったことから、北海道からの移入量(予測値:30.2千ト)もほぼ同水準となった。

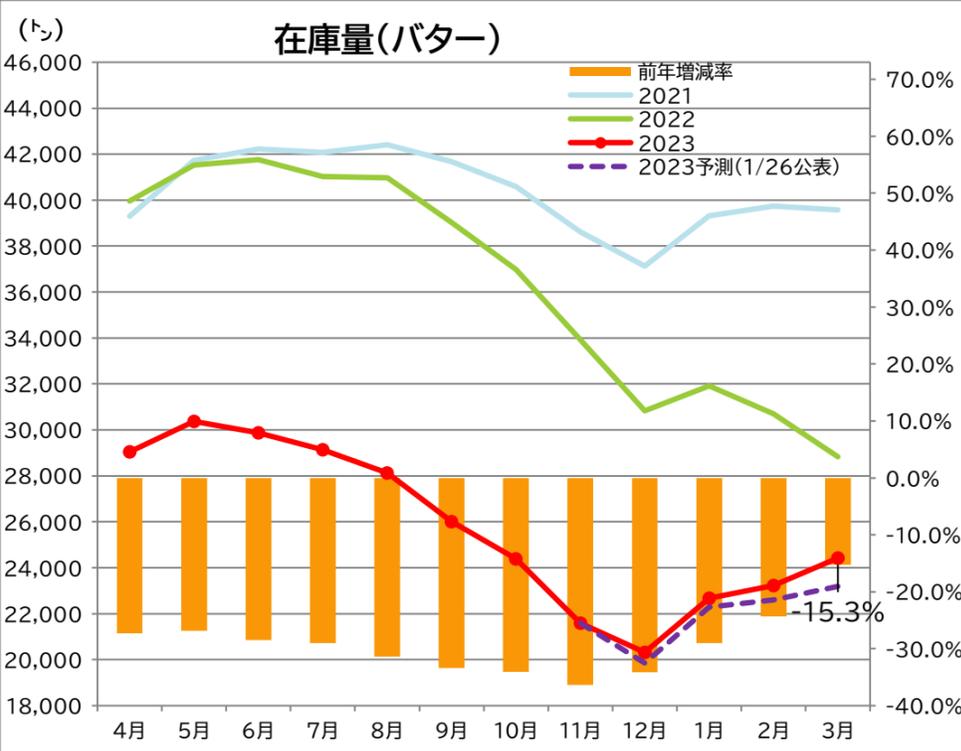
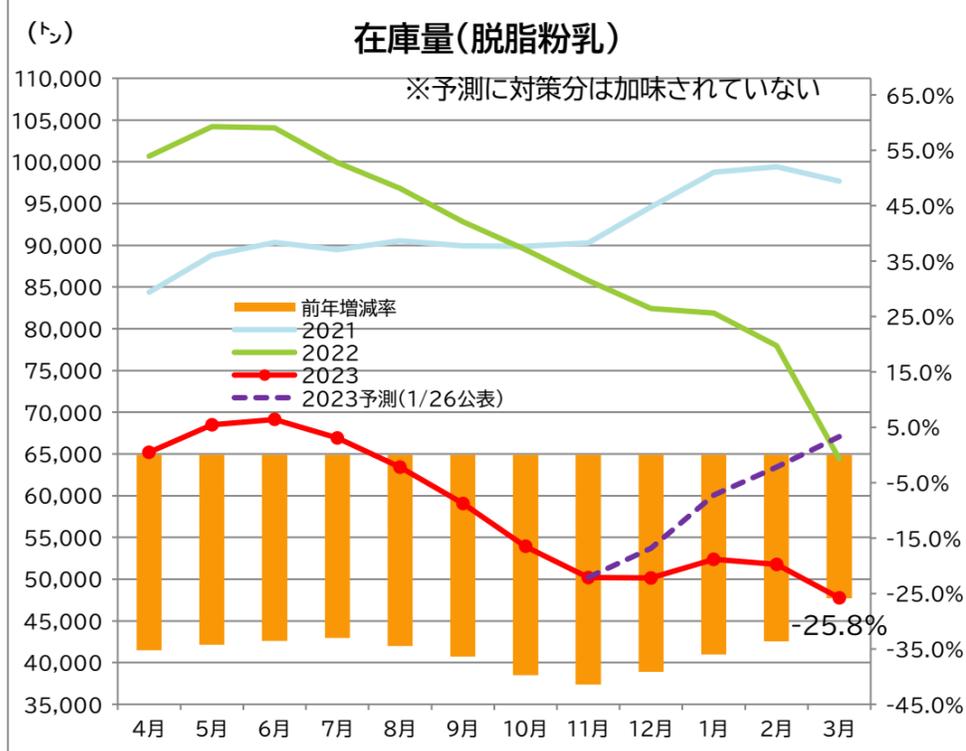
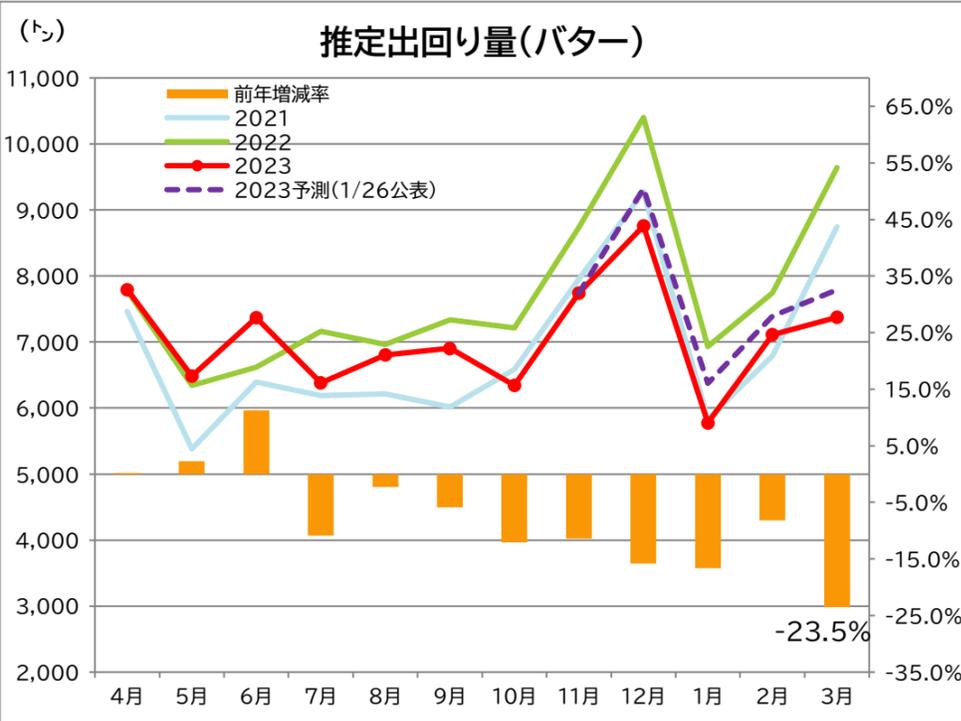
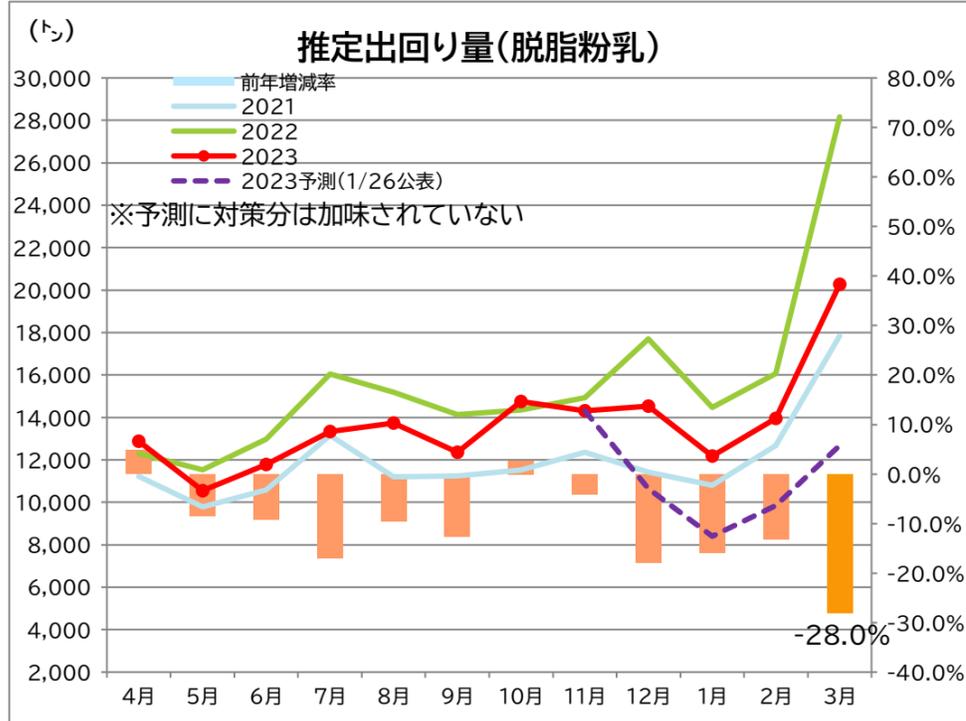
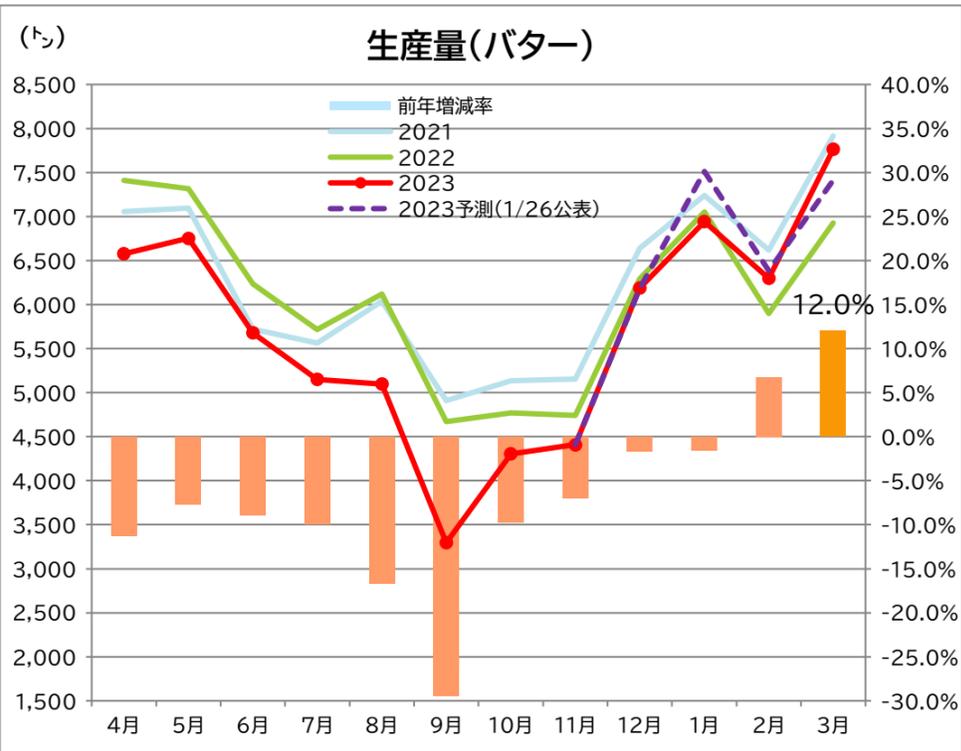
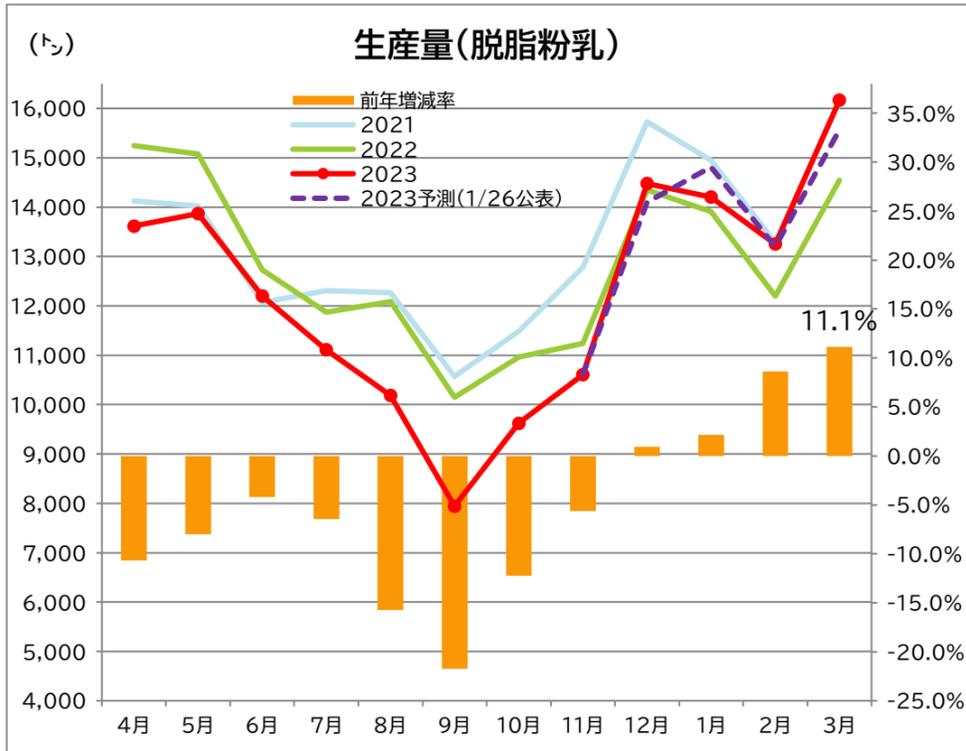


【脱脂粉乳・バターの需給】

(1)脱脂粉乳について、3月の生産量は16.2千ト(前年同月比111.1%)、推定出回り量は20.3千ト(同72.0%)となった。出回り量が生産量を上回ったため、在庫量は前月から4千ト程度減少し、47.8千ト(同74.2%)となった。在庫量は生産抑制の効果による脱バ仕向量の減少や在庫対策削減効果により、2023年9月には2018年11月以来、約5年振りに5万ト台となり、2024年3月には2016年3月以来、8年振りに4万ト台となった。 ※なお、推定出回り量の実績には在庫対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

(2)バターについて、3月の生産量は7.8千ト(同112.0%)、推定出回り量は7.4千ト(同76.5%)となった。バターの生産量が前年同期比を上回るのは2カ月連続。国家貿易による輸入売渡分(約0.8千ト(3月))を考慮すると生産量が出回り量を上回るため、在庫量は前月から1.2千ト程度増加し、24.4千ト(同84.7%)となった。在庫量は23カ月連続で前年を下回っている。

➡脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、飲用需要が低調に推移している。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図るとともに、全国協調の在庫削減対策による国産脱脂粉乳の国内需要拡大や輸出など、引き続き最大限取り進める必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)4月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比97.9%、成分調整牛乳:同85.8%、加工乳:同105.1%、乳飲料:同100.7%。牛乳類全体:同97.6%

【参考】2022年4月比…牛乳:94.1%、成分調整牛乳:73.0%、加工乳:100.2%、乳飲料:100.0%(牛乳類トータル:93.4%)

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(4/29週)の販売個数は、牛乳:前年同期比98.5%、成分調整牛乳:同85.9%、加工乳:同117.2%、乳飲料:同102.3%。牛乳類トータルでは同98.6%

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

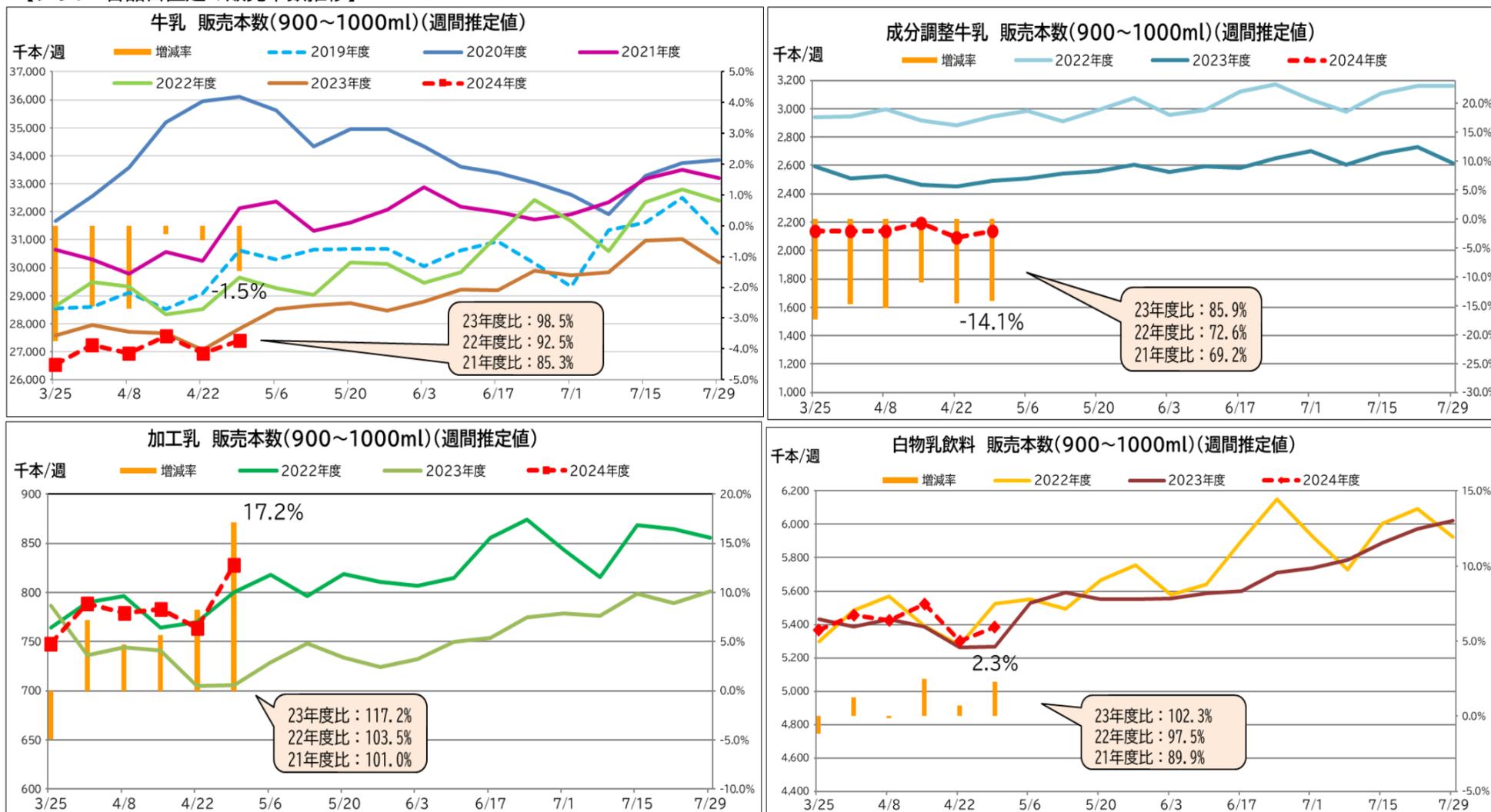
単位:千個、円

品目	区分	2023/11-	2023/12-	2024/1-	2024/2-	2024/3-	2024/4-	2024/4- 2022/10価格差	2024/4- 2023/3価格差	2024/4- 2023/7価格差
		販売個数	148,761	152,434	145,857	140,276	152,636	152,983		
トータル	販売個数前年比	96.0	96.1	95.7	99.8	97.4	97.6	32.6	17.5	15.7
	販売単価	216.7	216.9	217.0	216.6	216.2	215.7			
牛乳	販売個数	112,222	116,060	111,001	106,932	116,610	117,020			
	販売個数前年比	96.4	96.9	96.6	100.7	98.1	97.9	34.5	18.2	17.4
成分調整牛乳	販売個数	9,441	9,602	9,065	8,793	9,410	9,241			
	販売個数前年比	81.7	82.5	82.7	87.0	85.0	85.8	34.4	18.7	15.2
加工乳	販売個数	3,297	3,333	3,178	2,992	3,231	3,363			
	販売個数前年比	102.8	102.6	103.8	103.2	99.5	105.1	27.9	18.2	7.2
乳飲料	販売個数	23,801	23,439	22,613	21,559	23,385	23,360			
	販売個数前年比	100.2	97.6	96.7	101.1	99.1	100.7	24.0	13.4	9.7
	販売単価	173.6	174.3	173.5	173.7	173.7	173.5			

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	3.11-	3.18-	3.25-	4.1-	4.8-	4.15-	4.22-	4.29-	24.4.29- 22.10.24 価格差	24.4.29- 23.3.20 価格差	24.4.29- 23.7.24 価格差
		販売個数	34,148	34,132	34,807	35,615	35,300	36,074	35,104	35,770		
トータル	販売個数前年比	96.7	96.0	95.6	97.3	96.9	99.5	98.9	98.6	32.8	17.9	15.5
	販売単価	216.2	216.4	216.5	215.9	215.7	215.4	215.9	216.0			
牛乳	販売個数	26,073	26,131	26,551	27,236	26,961	27,573	26,945	27,418			
	販売個数前年比	97.2	96.9	96.2	97.4	97.3	99.7	99.5	98.5	34.8	18.5	17.3
成分調整牛乳	販売個数	2,111	2,086	2,139	2,137	2,137	2,196	2,094	2,138			
	販売個数前年比	84.9	83.4	82.6	85.2	84.5	89.1	85.4	85.9	34.4	19.5	14.9
加工乳	販売個数	720	735	748	789	779	783	764	828			
	販売個数前年比	98.2	102.3	94.9	107.2	104.6	105.6	108.3	117.2	23.9	13.6	3.0
乳飲料	販売個数	5,244	5,180	5,369	5,454	5,423	5,523	5,302	5,386			
	販売個数前年比	99.5	96.6	98.8	101.2	99.8	102.5	100.7	102.3	23.3	13.5	8.8
	販売単価	173.9	173.8	173.5	174.0	173.6	173.3	173.5	173.0			

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表⑤参照)

直近(4/29週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70~130ml):同100%以上、大容量タイプ(350~500ml):同100%以上。はっ酵乳全体としては、前年を下回る推移となっている。(3品目合計前年同期比:90%以上)。

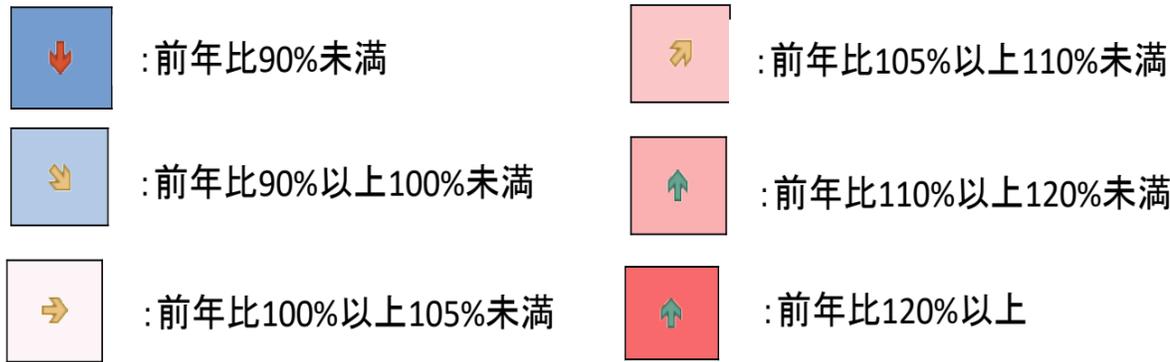
(2)販売個数について、前週(4/22週)と比較して3カテゴリーいずれも減少した。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表⑤ ヨーグルト類の販売動向】

単位:千個

品目	3.11-	3.18-	3.25-	4.1-	4.8-	4.15-	4.22-	4.29-
ドリンクタイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
個食タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	→	↘	→
大容量タイプ	→	↘	↘	→	→	↘	↘	→



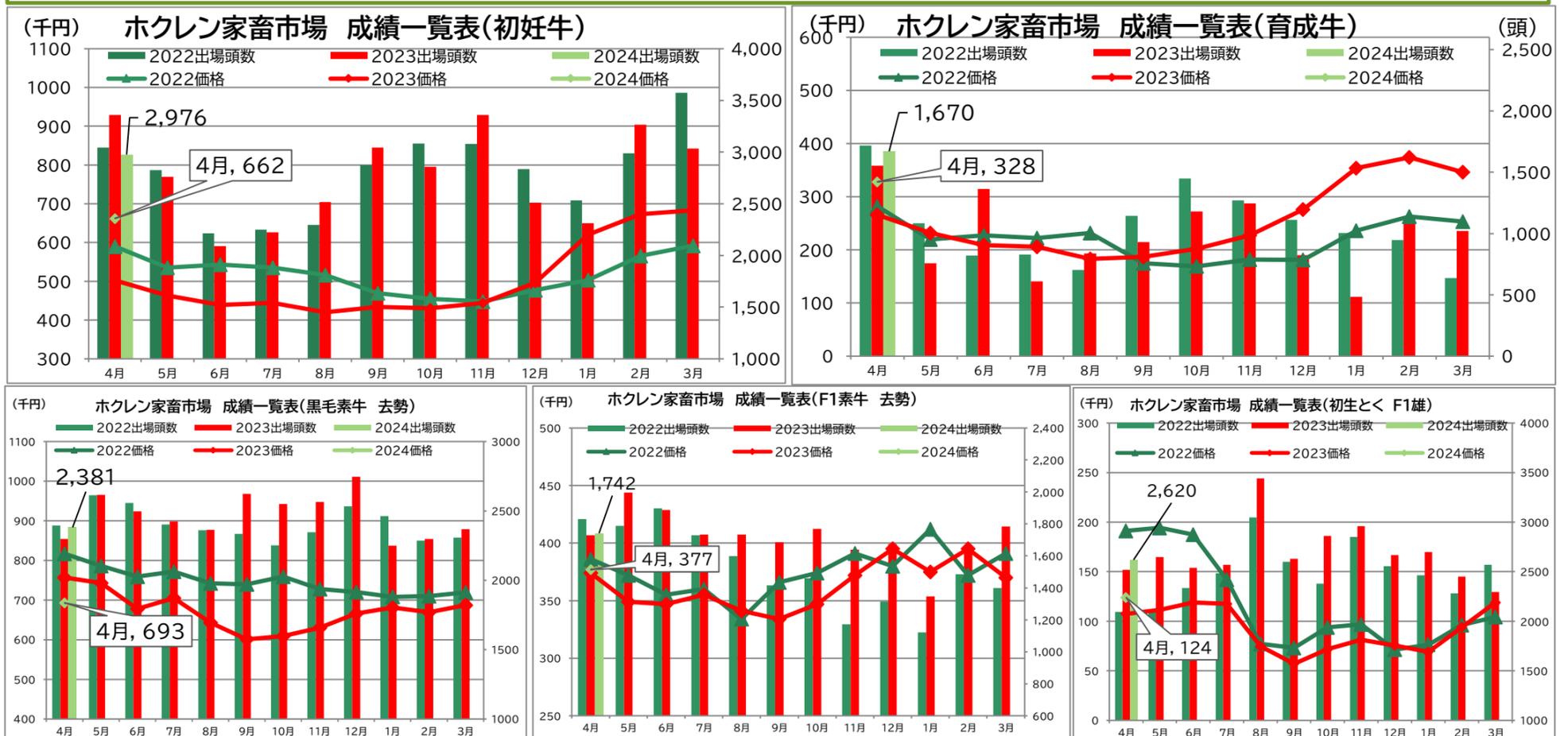
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

(1)4月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は662千円(前年同期比131.9%)、育成牛価格は328千円(同123.3%)、和牛素牛(去勢)価格693千円(同91.5%)、F1初生(雄)価格は124千円(同115.3%)、F1素牛(去勢)価格は377千円(同100.8%)。初妊牛は4カ月連続で60万円台となり、育成牛についても3カ月連続で30万円台。F1初生(雄)は2ヶ月連続で10万円を上回った。ホル初生(雄)価格は49千円(同106.0%)となった(グラフ無し)。

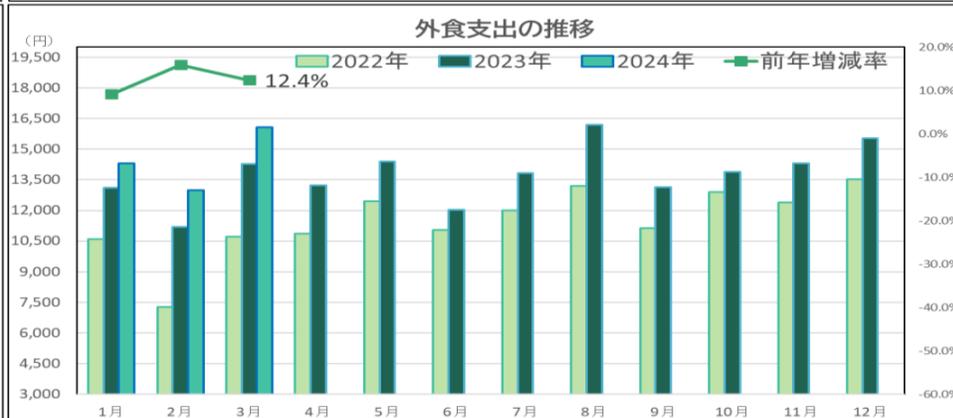
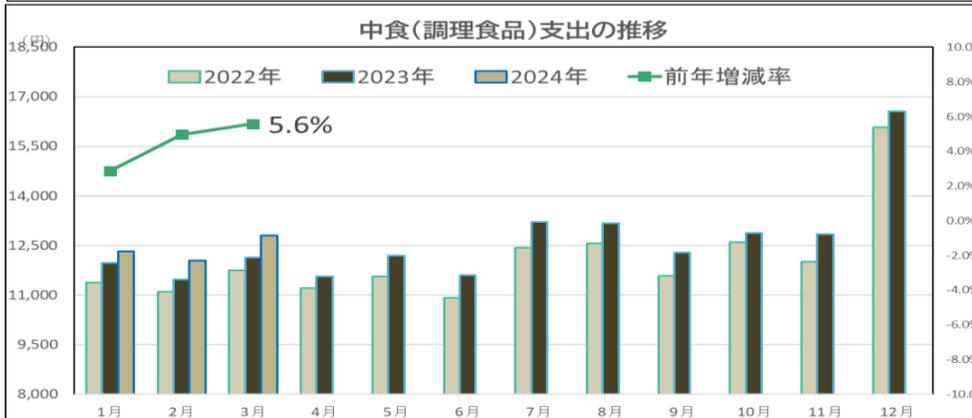
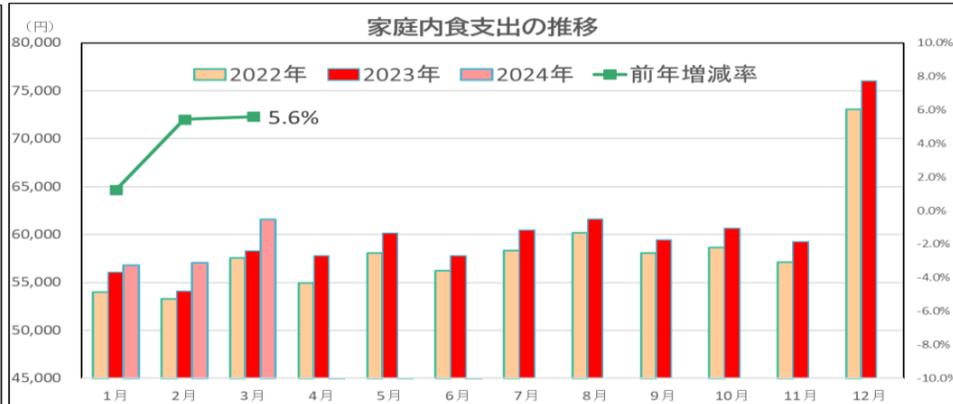
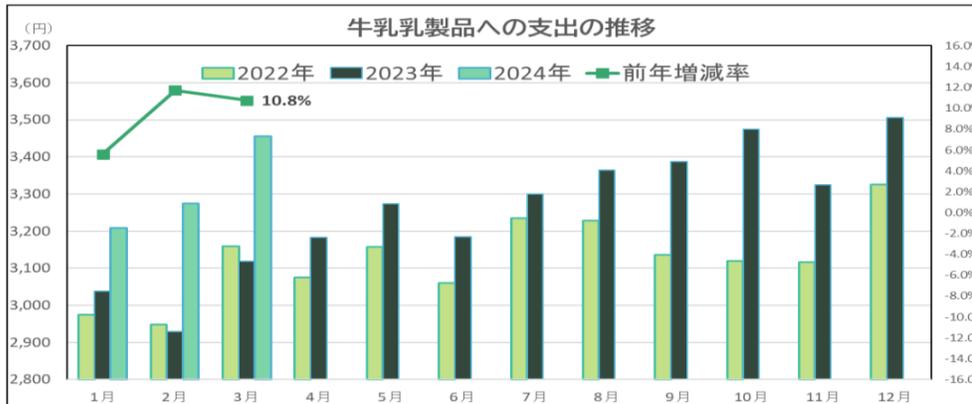
(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同88.6%、育成牛:同107.5%、F1初生(雄):同104.1%、和牛素牛(去勢):同103.7%、F1素牛(去勢):同100.7%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

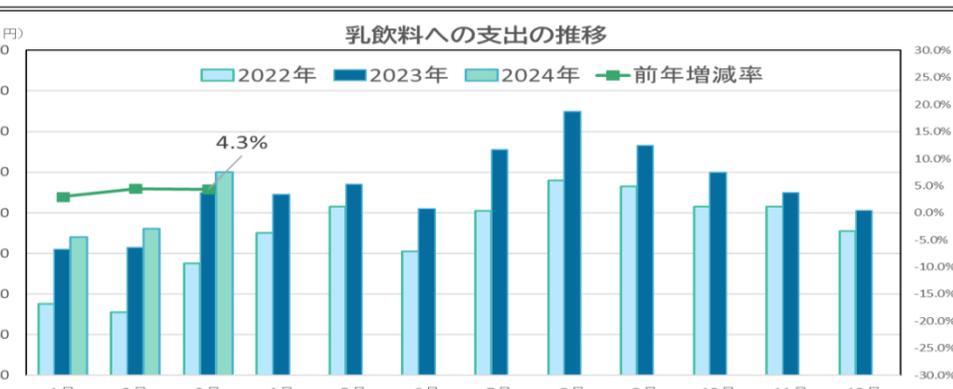
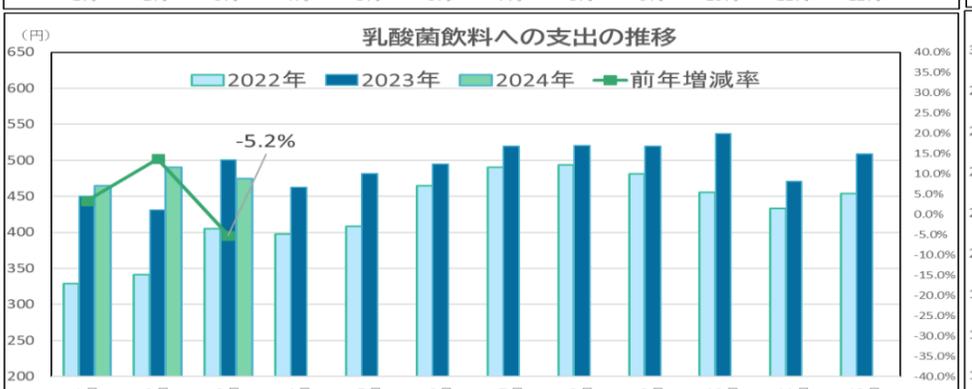
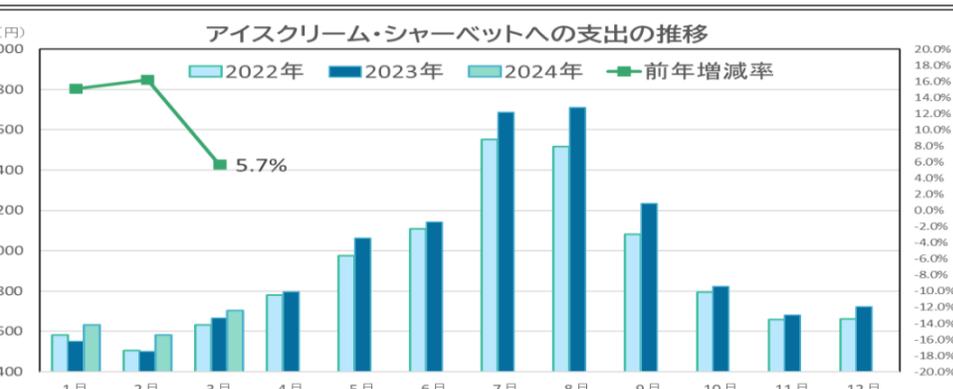
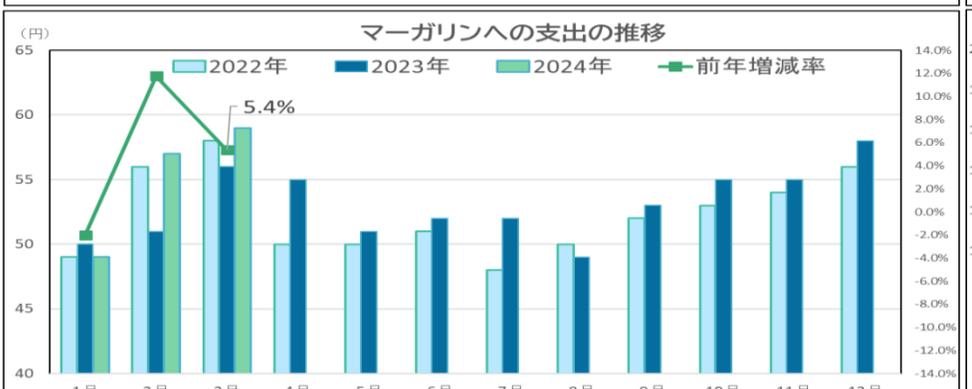
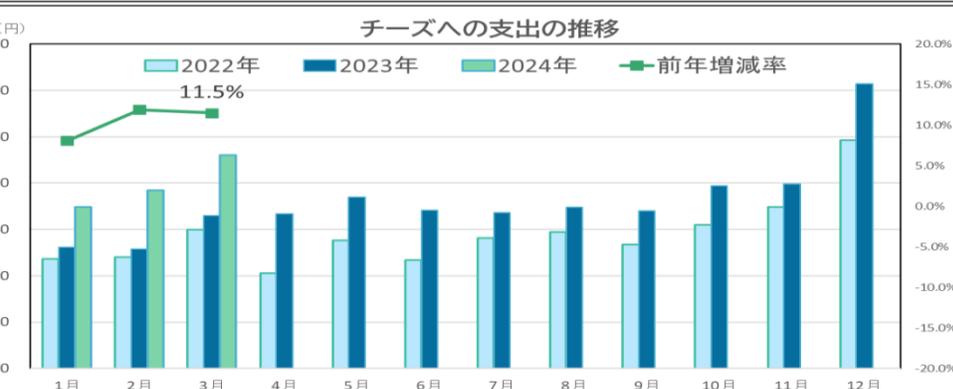
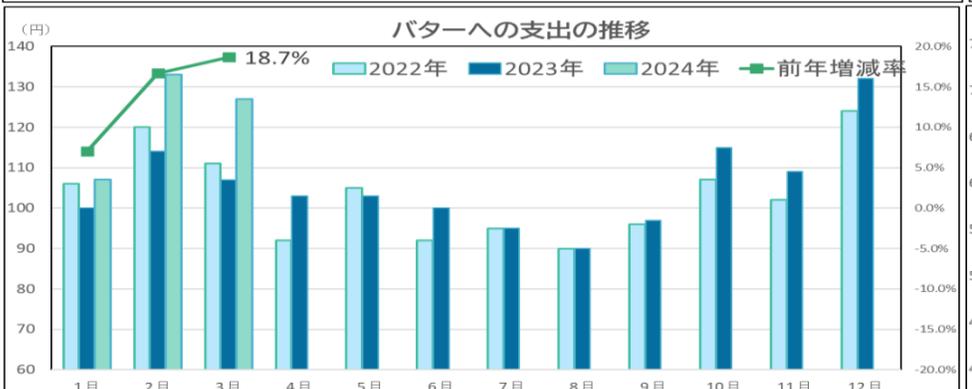
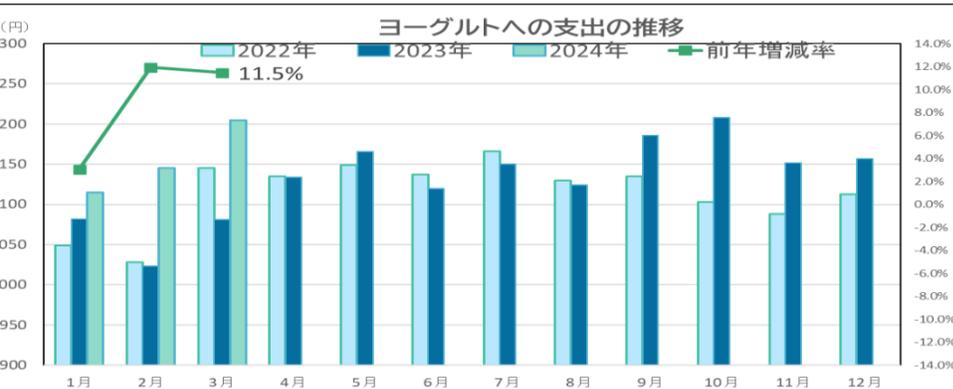
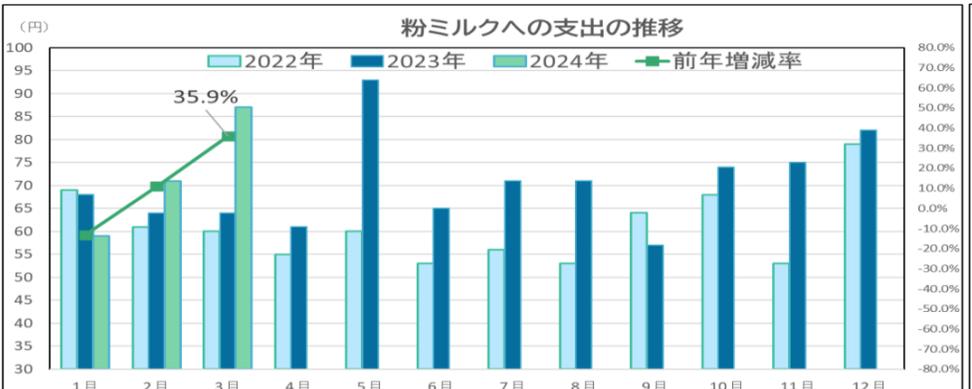


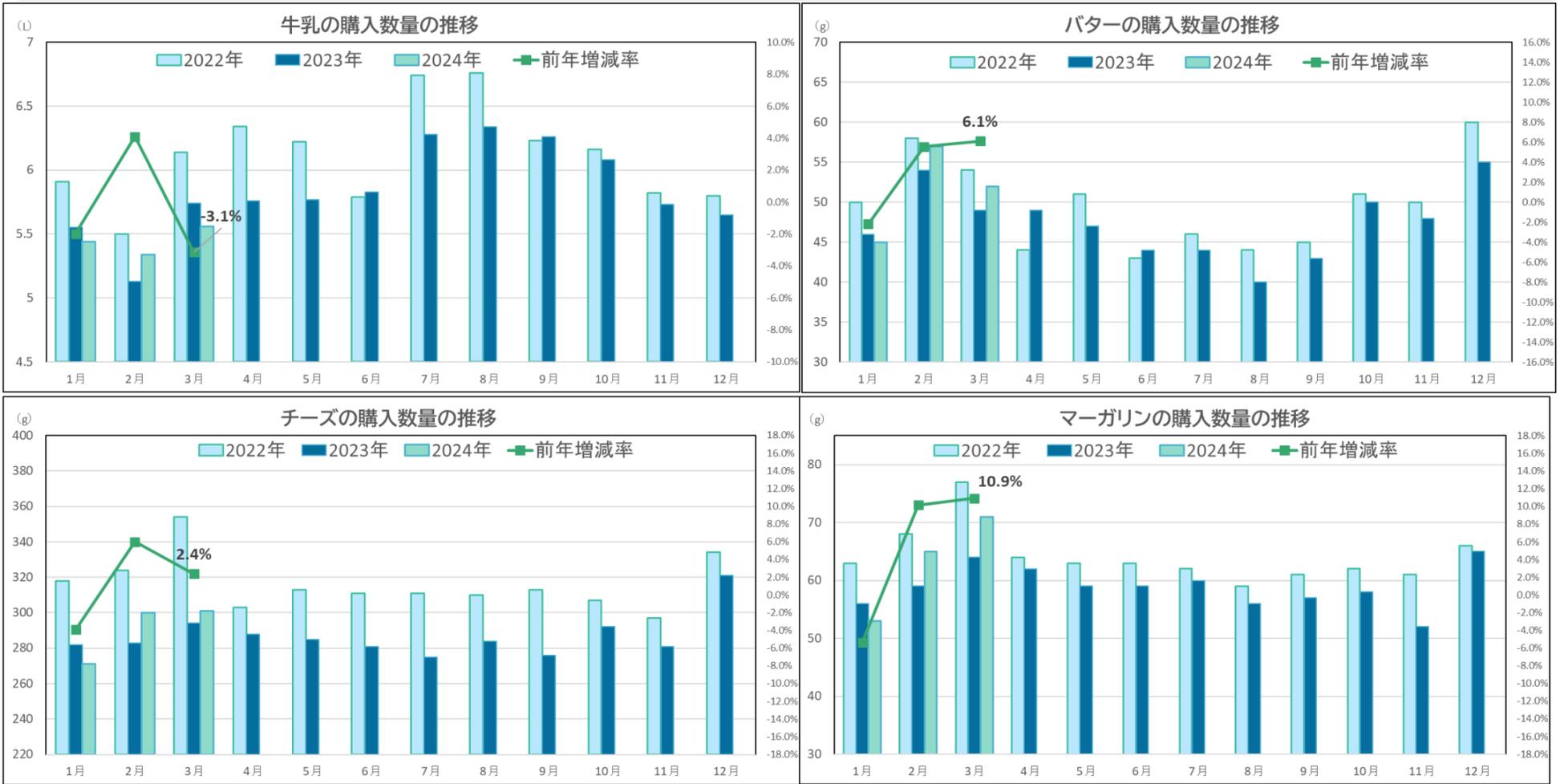
【家計支出の動向】

(1)3月の支出額前年比について、外食115.9%、中食105.0%、内食105.4%と前年を上回り、食料全体への支出額は106.9%となった。
 (2)牛乳乳製品の支出額については、前年を大きく上回った。牛乳乳製品全体の前年比は111.7%(うち牛乳111.4%、乳製品111.9%)。
 (3)なお、購入量は、牛乳104.1%(1世帯当たり5.34L)と5カぶりに前年を上回った。バター、チーズ、マーガリン、ヨーグルトなども前年を上回る結果となった。
 ※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】



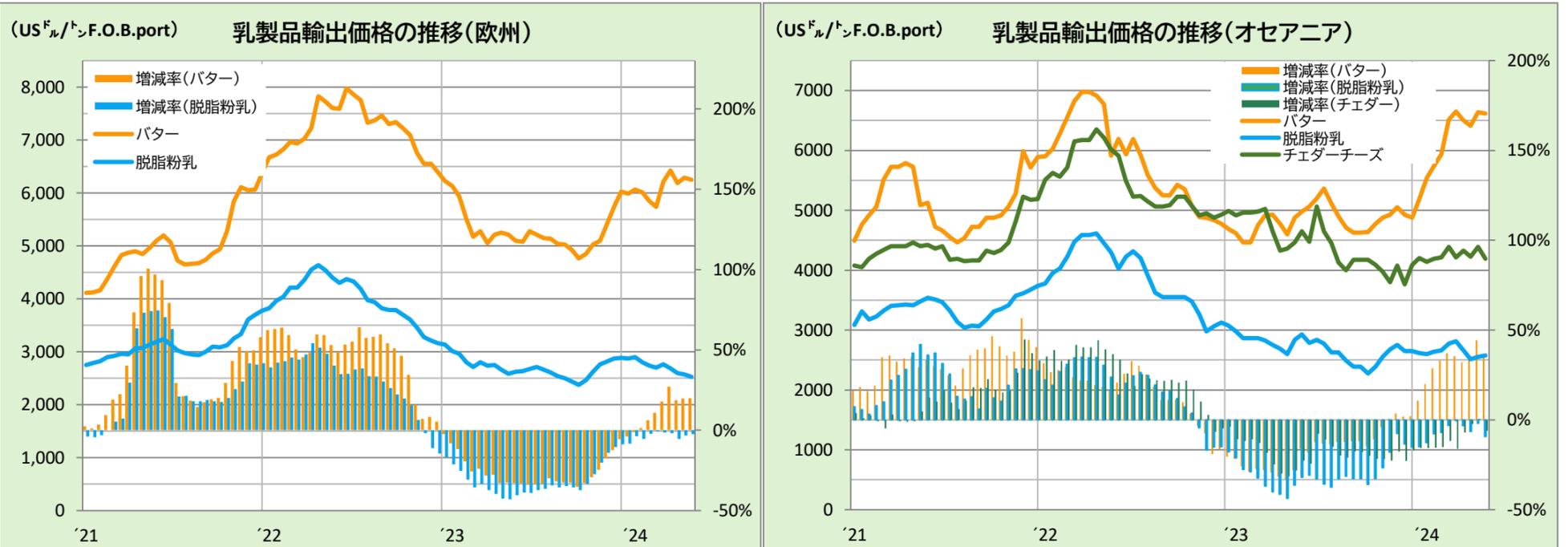


【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(4月下旬)

- ・欧州:脱脂粉乳2,525ドル/ト、バター6,250ドル/ト中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳2,575ドル/ト、バター6,600ドル/ト、チェダーチーズは4,200ドル/ト中心

※出典:米国農務省(USDA)



※「2024年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」